

中小企業景況調査について

1 調査目的

この調査は、半期毎に清須市商工会が行う中小企業景況調査から、同地区内における経済動向等に関する情報の分析を行い、効果的な経営支援の実施ならびに事業活動の参考とすることを目的とする。

2 調査要領

(1) 調査対象時期

平成31年4月から令和1年9月の上半期を対象とし、調査時点は令和1年10月31日。

(2) 調査対象企業






清須市商工会地区内71企業。

内訳は、製造業13企業、建設業16企業、小売業14企業、飲食業15企業、サービス業13企業。

(3) 各調査項目の数字及び記号の説明

本報告書の中のDIとは、景気動向指数と呼ばれるもので、各項目調査についての増加(上昇、好転)企業割合から減少(低下、悪化)企業割合を差し引いた数値。

この数値と記号の関係については下記の通り。

雨	曇りのち雨	曇り	晴れのち曇り	晴れ
				
△100.0～△60.1	△60.0～△20.1	△20.0～20.0	20.1～60.0	60.1～100.0

中小企業景況調査報告書(清須市概略版)

(平成31年4月～令和1年9月期実績、令和1年10月～令和2年3月期見通し)

1 清須市商工会地区内における産業全体景況

産業全体はすべての指標が悪化

今期の産業全体の景況は、売上額DIが-4.2、採算DIが-11.3、資金繰りDIが-7.0となり、対前期比でそれぞれ-14.1ポイント、-18.3ポイント、-5.6ポイント低下し、すべての指標が悪化した。

前期までは、3期連続で上昇を続けてきたが、今期はすべての指標が悪化した。年間を通した趨勢で見ると、景況感は悪化の傾向にある。次期は、売上額DI、採算DIが若干の低下、資金繰りはDIは横ばいの見通しである。

業種別では、建設業がDI値がプラスになっており安定している。製造業、小売業はすべての指標が悪化しており厳しい状況がうかがえる。サービス業もすべての指標が悪化しているが、DI値はプラス方向にあるため、他産業と比べ良いことがうかがえる。飲食業は他業種並みに改善してきたものの、若干の悪化傾向が出ている。

産業全体の主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	-4.2% (対前年比 12.7 好転)	次期予想	-5.6% (対前年比 -15.5 悪化)
・採算DI	-11.3% (対前年比 -5.7 悪化)	次期予想	-12.7% (対前年比 -19.7 悪化)
・資金繰りDI	-7.0% (対前年比 0.0 横ばい)	次期予想	-7.0% (対前年比 -5.6 悪化)

産業全体景況天気図

総評



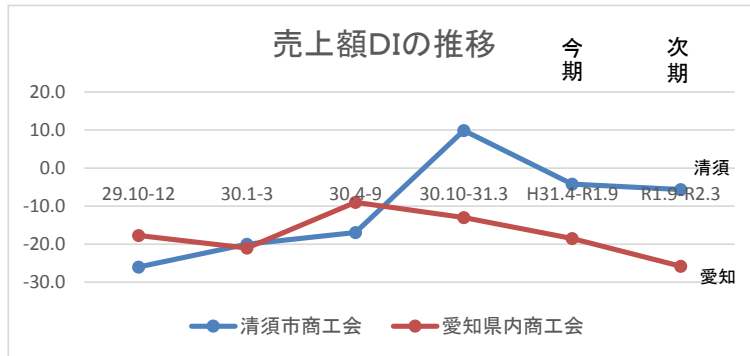
時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
29年10月～12月		-26.0% ↗		-28.0% ↘		-14.0% ↗
30年1月～3月		-20.0% ↗		-16.0% ↗		-11.0% ↗
30年4月～9月		-16.9% ↗		-5.6% ↗		-7.0% ↗
30年10月～31年3月 (前期)		9.9% ↗		7.0% ↗		-1.4% ↗
31年4月～1年9月 (今期)		-4.2% ↘		-11.3% ↘		-7.0% ↘
1年10月～2年3月 (見通し)		-5.6% ↘		-12.7% ↘		-7.0% ⇔

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

2 愛知県内商工会（愛知県）と清須市商工会（清須市）との比較

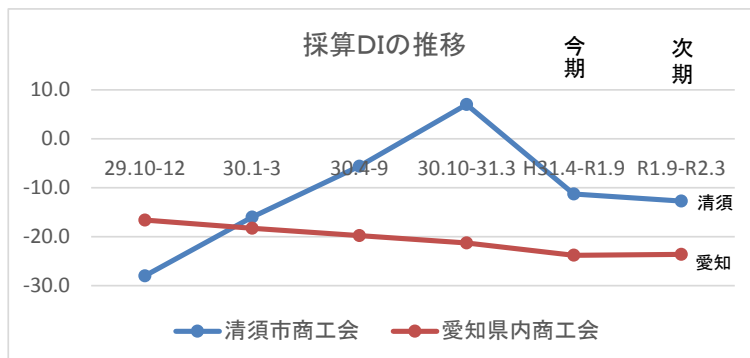
①売上額DI

前期に清須市が大きく好転したが、直近では悪化した。愛知県は30.4-9期以降悪化の一途である。次期も引き続き双方ともに悪化する見通しである。



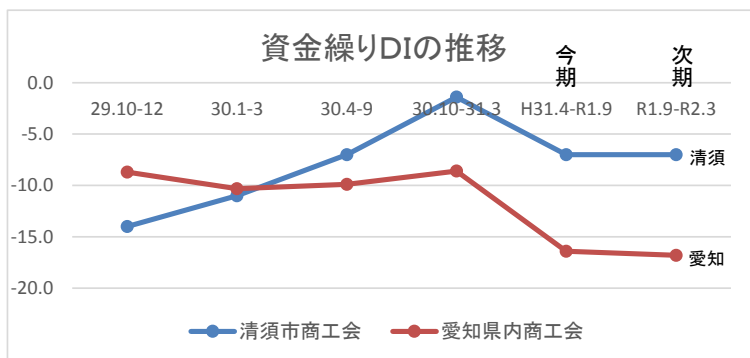
②採算DI

清須市は前期まで上昇を続けていたが今期は一転悪化した。愛知県は継続的に悪化の傾向にある。次期は、清須市が微減、愛知県は微増の見通しである。



③資金繰りDI

清須市は前期まで改善を続けてきたが今期は一転悪化した。愛知県は前期まで横ばいだったが、当期は悪化に転じた。次期は、清須市が横ばい、愛知県は微減の見通しである。



【全産業平均】

売上額DIの推移

時期	29.10-12	30.1-3	30.4-9	30.10-31.3	今期 H31.4-R1.9	次期 R1.9-R2.3
清須市商工会	-26.0	-20.0	-16.9	9.9	-4.2	-5.6
愛知県内商工会	-17.7	-21.0	-9.0	-13.0	-18.5	-25.8

採算DIの推移

時期	29.10-12	30.1-3	30.4-9	30.10-31.3	H31.4-R1.9	R1.9-R2.3
清須市商工会	-28.0	-16.0	-5.6	7.0	-11.3	-12.7
愛知県内商工会	-16.6	-18.3	-19.8	-21.3	-23.8	-23.6

資金繰りDIの推移

時期	29.10-12	30.1-3	30.4-9	30.10-31.3	H31.4-R1.9	R1.9-R2.3
清須市商工会	-14.0	-11.0	-7.0	-1.4	-7.0	-7.0
愛知県内商工会	-8.7	-10.3	-9.9	-8.6	-16.4	-16.8

※愛知県内商工会の数値は、愛知県商工会連合会が作成する中小企業景況調査報告書（愛知県概略版）から引用

3 業種別景況

(1) 製造業

製造業はすべての指標が悪化

製造業では、売上額DIが-15.4、採算DIが-30.8、資金繰りDIが-7.7となり、対前期比でそれぞれ-35.4ポイント、-17.5ポイント、-7.7ポイント低下し、すべての指標が悪化した。

前期は、売上額DI、資金繰りDIが大きく上昇し、採算DIも横ばいと改善の傾向にあったが、今期はすべての指標が悪化している。年間を通した趨勢で見ると、横ばいの傾向がうかがえる。また、売上額DIの動きから、上半期より下半期の方が良い傾向を示している。

次期は、売上額DIが上昇、採算DIは横ばい、資金繰りDIが低下する見込みだが、全体的には横ばいの見通しである。

主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	-15.4% (対前年比 17.9 好転)	次期予想	7.7% (対前年比 -12.3 悪化)
・採算DI	-30.8% (対前年比 -17.5 悪化)	次期予想	-30.8% (対前年比 -17.5 悪化)
・資金繰りDI	-7.7% (対前年比 12.3 好転)	次期予想	-15.4% (対前年比 -15.4 悪化)

製造業景況天気図

総評



時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
29年10月～12月		-19.0%		-14.3%		-4.8%
30年1月～3月		-23.8%		-4.8%		-9.5%
30年4月～9月		-33.3%		-13.3%		-20.0%
30年10月～31年3月 (前期)		20.0%		-13.3%		0.0%
31年4月～1年9月 (今期)		-15.4%		-30.8%		-7.7%
1年10月～2年3月 (見通し)		7.7%		-30.8%		-15.4%

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

(2)建設業

建設業は売上額DI・資金繰りDIは好転、採算DIは悪化

建設業では、売上額DIが12.5、資金繰りDIが12.5となり、対前期比でそれぞれ19.6ポイントずつ上昇した。採算DIは0.0となり、対前期比で-7.1ポイント低下した。

前期は、売上額DIが低下、採算DIが上昇、資金繰りDIは横ばいであったが、全体的に横ばいの傾向にある。今期は、売上額DI、資金繰りDIが改善し、採算DIが悪化した。すべてのDI値がマイナスから脱した。年間を通した趨勢で見ても、比較的安定している。

次期は、すべての指標が低下する見通しである。これまで他業種と比較しても、堅調に推移してきたが、先行きに不安を感じていることがうかがえる。

主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	12.5% (対前年比 12.5 好転)	次期予想	-25.0% (対前年比 -17.9 悪化)
・採算DI	0.0% (対前年比 0.0 横ばい)	次期予想	-18.8% (対前年比 -25.9 悪化)
・資金繰りDI	12.5% (対前年比 19.6 好転)	次期予想	-12.5% (対前年比 -5.4 悪化)

建設業景況天気図

総評



時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
29年10月～12月		-38.9%		-22.2%		-11.1%
30年1月～3月		-16.7%		0.0%		0.0%
30年4月～9月		0.0%		0.0%		-7.1%
30年10月～31年3月 (前期)		-7.1%		7.1%		-7.1%
31年4月～1年9月 (今期)		12.5%		0.0%		12.5%
1年10月～2年3月 (見通し)		-25.0%		-18.8%		-12.5%

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

(3)小売業

小売業はすべての指標が悪化

小売業では、売上額DIが-50.0、採算DIが-21.4、資金繰りDIが-14.3となり、対前期比でそれぞれ-11.5ポイント、-13.7ポイント、-6.6ポイント低下し、すべての指標が悪化した。

前期は、売上高DIが低下、採算DIは上昇、資金繰りDIは横ばいで、全体的には横ばいの傾向であったが、今期は全体的に悪化の方向に傾いた。年間を通した趨勢で見ても、景況感は悪化の傾向にある。

次期は、すべての指標において改善の見通しである。

主要3DIの対前年同期比推移（今期値は前年29.10～12、30.1～3の平均値で対比）

・売上額DI	-50.0% (対前年比 -19.2 悪化)	次期予想	-21.4% (対前年比 17.1 好転)
・採算DI	-21.4% (対前年比 -6.0 悪化)	次期予想	-7.1% (対前年比 0.6 好転)
・資金繰りDI	-14.3% (対前年比 -6.6 悪化)	次期予想	0.0% (対前年比 7.7 好転)

小売業景況天気図

総評



時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
29年10月～12月		-28.6% ↗		-42.9% ↘		-28.6% ⇔
30年1月～3月		-19.0% ↗		-28.6% ↗		-23.8% ↗
30年4月～9月		-30.8% ↘		-15.4% ↗		-7.7% ↗
30年10月～31年3月 (前期)		-38.5% ↘		-7.7% ↗		-7.7% ⇔
31年4月～1年9月 (今期)		-50.0% ↘		-21.4% ↘		-14.3% ↘
1年10月～2年3月 (見通し)		-21.4% ↗		-7.1% ↗		0.0% ↗

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

(4) 飲食業

飲食業は売上額DIが横ばい、採算DI・資金繰りDIは悪化

飲食業では、売上額DIが13.3となり、対前期比で横ばいとなった。採算DIが-13.3、資金繰りDIが-20.0となり、対前期比でそれぞれ-26.6ポイント、-20.0ポイント低下した。

前期までは、3期連続すべての指標が改善してきたが、今期は売上額DIが横ばい、採算DI、資金繰りDIが悪化した。年間を通した趨勢で見ると、悪化の傾向を示している。要因として消費増税による消費の減速を懸念していることが感じられる。

次期は、売上額DI、採算DIがさらに悪化、資金繰りは改善の見通しである。

主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	13.3% (対前年比 40.0 好転)	次期予想	-20.0% (対前年比 -33.3 悪化)
・採算DI	-13.3% (対前年比 0.0 横ばい)	次期予想	-33.3% (対前年比 -46.6 悪化)
・資金繰りDI	-20.0% (対前年比 -6.7 悪化)	次期予想	-6.7% (対前年比 -6.7 悪化)

飲食業景況天気図

総評



時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
29年10月～12月		-64.7% ⇨		-70.6% ↘		-47.1% ↘
30年1月～3月		-35.3% ↗		-41.2% ↗		-23.5% ↗
30年4月～9月		-26.7% ↗		-13.3% ↗		-13.3% ↗
30年10月～31年3月 (前期)		13.3% ↗		13.3% ↗		0.0% ↗
31年4月～1年9月 (今期)		13.3% ⇨		-13.3% ↘		-20.0% ↘
1年10月～2年3月 (見通し)		-20.0% ↘		-33.3% ↘		-6.7% ↗

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

(5) サービス業

サービス業はすべての指標が悪化

サービス業では、売上額DIが15.4、採算DIが7.7、資金繰りDIが-7.7となり、対前期比でそれぞれ-41.7ポイント、-28.0ポイント、-14.8ポイント低下し、すべての指標が悪化した。

前期は、売上額DI、採算DIが一時的に大幅に好転したが、今期は大幅に低下した。但し、大幅に低下したものの値はプラス値であり、前年同期比並みに戻ったといえる。資金繰りDIは売上高DI、採算DIに比べ大幅な変動はないが若干のマイナスとなった。サービス業は、全産業の中でも比較的良い値となっている。年間を通した趨勢で見ても、景況感は安定している。

次期は、すべての指標で好転する見通しである。

主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	15.4% (対前年比 8.3 好転)	次期予想	38.5% (対前年比 -18.6 悪化)
・採算DI	7.7% (対前年比 -6.6 悪化)	次期予想	30.8% (対前年比 -4.9 悪化)
・資金繰りDI	-7.7% (対前年比 -22.0 悪化)	次期予想	0.0% (対前年比 -7.1 悪化)

サービス業景況天気図

総評



時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
29年10月～12月		8.7%		0.0%		13.0%
30年1月～3月		-8.7%		-8.7%		0.0%
30年4月～9月		7.1%		14.3%		14.3%
30年10月～31年3月 (前期)		57.1%		35.7%		7.1%
31年4月～1年9月 (今期)		15.4%		7.7%		-7.7%
1年10月～2年3月 (見通し)		38.5%		30.8%		0.0%

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

4 経営上の問題点

今期、直面している経営上の問題点を業種別に示したものである。

業種別に特徴はあるが、需要の停滞、仕入単価の上昇、ニーズ変化への対応が問題となっている。

業種	順位	問題点	割合
製造業	1位	需要の停滞	15.2%
	1位	生産設備の不足・老朽化	15.2%
	1位	製品ニーズの変化への対応	15.2%
建設業	1位	請負単価の低下・上昇難	22.7%
	1位	材料価格の上昇	22.7%
	3位	民間需要の停滞	18.2%
小売業	1位	仕入単価の上昇	23.1%
	1位	需要の停滞	23.1%
	3位	消費者ニーズの変化への対応・販売単価の低下・上昇難	14.3%
飲食業	1位	材料等仕入単価の上昇	30.0%
	2位	利用者ニーズの変化への対応	16.7%
	3位	店舗施設の狭隘・老朽化	13.3%
サービス業	1位	従業員の確保難	20.0%
	2位	店舗施設の狭隘・老朽化・人件費の増加	12.0%
	2位	材料等仕入単価の上昇・熟練技術者の確保難	12.0%

5 取り組むべき経営課題

問題解決に向けて、取り組むべき経営課題を全産業平均及び業種別に示したものである。

全産業平均では、「販路開拓」、「コスト削減」、「人材募集」について、多くの企業が課題と考えている。

但し、直近では割合が分散している傾向にあり、各企業において課題が増えていることがうかがえる。

業種	順位	経営課題	割合
製造業	1位	設備投資	26.3%
	2位	コスト削減	21.1%
	3位	人材募集・販路開拓	15.8%
建設業	1位	販路開拓	42.9%
	2位	人材募集	28.6%
	2位	その他(特になし)	28.6%
小売業	1位	販路開拓	31.3%
	2位	コスト削減	25.0%
	3位	現場改善・新製品開発	18.8%
飲食業	1位	販路開拓	25.0%
	2位	コスト削減	21.4%
	3位	新製品開発	17.9%
サービス業	1位	人材募集	46.2%
	2位	設備投資	23.1%
	3位	販路開拓	15.4%
全産業平均	1位	販路開拓	24.1%
	2位	コスト削減	19.3%
	3位	人材募集	16.9%